

兵庫県 の ツチカメムシ

高 橋 寿 郎

ツチカメムシの仲間はほとんどが黒褐色から黄褐色をして頭部の前縁に毛や小さいとげのあるものが多い。雑草の根ぎわや石の下などの比較的地表で植物の根や地上に落ちた木の実などを吸収して生活する。どちらかと云えば余り目立たない虫であり同時に種類数もそう多くない。現在の日本にこの科のものがいくらいるのか残念ながら綜説のようなものがなく目録のようなものも見当らないのでよくわからない。お隣の中国のカメムシ類の分類図説(1977)を見るとこの科のものは19種が図説されている。宮本博士による原色昆虫大図鑑、Ⅲ(1965)での日本産図説は11種となっている。筆者が手許の文献で調べた所では日本産の本科のものは17種となった。

一応現時点での兵庫県に産するこの類の分布を眺めて見ることにする。同定は出来るだけ正確を期したが浅学未熟のため誤りがあるかも知れない。御教示、御叱正頂ければ幸である。

Family Cydnidae ツチカメムシ科

1. *Adrisa magna* (Uhler, 1860) ヨコソナツチカメムシ

この種はその名前のごとく他のツチカメムシに比して大形で(体長、18~20mm)あり従来少い種とされていた様である。兵庫県下の記録もそれ程多くない。古く戸沢信義氏が甲東園から記録されたのが県下での初めての記録になると思われる。併し神戸市の烏原貯水池畔では道路の側溝の落葉下には割合見られるし、鴨越ではオサムシ掘りをした際土中より1度に6匹も出て来た。電燈に飛来する記録はあるが筆者電燈にての採集は無い。自宅の庭のセメント壁を歩行中のものを採集したことがあるし9、10月頃であれば上記烏原では道路上を歩行中のものにちょこちょこお目にかかる。従ってそれ程少い種ではないと考える。生態に就いては良くわからない。

古くDistantの図説(1904)があり、宮本博士の原色図説(1965)以外にも多く図説されている。

産地：洲本市三熊山〔登日、1983〕。川西市笹部、大和〔仲田、1978〕。宝塚市内〔日浦、1959〕。西宮市甲東園〔戸沢、1983〕、神戸市烏原(1 ex., 9-V-1974, 筆者採集, 標本所有のものについてはデータをつけた。以下同じ。1 ex., 11-VII-1976, 1 ex., 1-V-1971, 1 ex., 22-V-1977, 1 ex., 31-VII-1977, 2 exs., 23-IX-1977, 1 ex., 18-VI-1978, 1 ex., 14-VI-1978, 1 ex., 31-VII-1977, 2 exs., 23-IX-1977, 1 ex., 6-X-1977, 1 ex., 18-VI-1978, 1 ex., 14-VI-1978, 1 ex., 29-IX-1980, 1 ex., 1-X-1980), 鴨越(6 exs., 4-IV-1976)。氷上郡〔山本、1954, 1958〕。豊岡市内〔高橋、1975〕。

2. *Macroscythus fraterculus* Horváth, 1919 コツチカメムシ

本種は次種ツチカメムシに似るがや、小型で(体長6~7mm)、光沢ある黒色、時に褐色。頭部

前縁に沿い少数の軟毛と長毛とがあり、体周縁にも長毛を粗に列生する。兵庫県下での記録が大変少いが割合いる種ではないだろうか。長谷川 仁氏によると本州では海岸線に沿って広く分布すると記しておられる (1960)。

最近の H. Tsai-yu et al のモノグラフ (1977) によるとこの種は次記ツチカメムシ, *M. subaeneus* (Dallas) と同一種に扱っておられる。体長も異なるし、その記載を見た範囲では別種のように思う。

産地：三原郡慶野松原 (1 ex., 26-V-1983)。川西市大和〔仲田, 1978〕。尼崎市園田 (1 ex., 5-V-1967)。神戸市烏原 (1 ex., 24-VI-1970, 1 ex., 4-VIII-1971, 1 ex., 29-VIII-1971, 1 ex., 30-IX-1971, 7 exs., 2-VII-1972, 1 ex., 6-VIII-1972, 3 exs., 1-VII-1973, 4 exs., 14-VII-1973, 1 ex., 25-V-1974, 1 ex., 9-VI-1974, 1 ex., 3-III-1975, 4 exs., 12-VI-1976, 3 exs., 27-VI-1976, 1 ex., 22-V-1977, 1 ex., 26-V-1979, 1 ex., 16-V-1982, 1 ex., 26-V-1982, 1 ex., 28-V-1982, 1 ex., 11-VI-1982)。布引 (1 ex., 17-V-1959), 1 ex., 17-V-1959)。下谷上 (2 exs., 23-VIII-1979)。三木市内 (3 exs., 28-VIII-1978)。宍粟郡音水 (1 ex., 16-VII-1972)。

3. *Macroscytus subaeneus* (Dallas, 1851) ツチカメムシ

フィリピン産で *Aethus* 属で記載された種である (1851)。既に宮本博士も指適しておられるように従来 Scott により日本産で記載された *M. japonensis* (1874) と同一種である。*M. Tsai-yu et al* の中国産のモノグラフでもその様に取扱われている (1977)。

全体が光沢のある黒色でまた褐色の個体もとれる。成虫で越冬し、春に地中で産卵し、6月から新成虫があらわれる。

クスノキ、ヤツデ、クスなどの実が地上に落ちるとそれから汁を吸う。一つの実に数匹が集っている光景が神戸市内あたり道路の側溝などでよく目に付く。また地中で各種の植物の根からも吸収するそうである。

本種の生態に就いては小林氏の報告がある (1954)。

県下には広く分布している普通種と考えられる。

産地：洲本市安乎町、山武牧場〔堀田, 1975〕。三原郡諭鶴羽山〔友国, 1974〕。川西市大和、笹部〔仲田, 1974〕。西宮市園田山〔女学院, 1974〕。神戸市烏原 (1 ex., 24-VII-1966, 1 ex., 17-VIII-1969, 1 ex., 15-V-1970, 5 exs., 26-III-1972, 1 ex., 4-VI-1972, 1 ex., 23-VII-1972, 1 ex., 1-VII-1973, 1 ex., 8-VII-1973, 1 ex., 11-V-1975, 1 ex., 29-VIII-1975, 1 ex., 6-III-1976, 1 ex., 12-V-1976)、山の街 (1 ex., 7-VI-1959, 1 ex., 24-VII-1966)、妙法寺 (13 exs., 23-XI-1956)。明石市明石公園 (3 exs., 15-VI-1975, 4 exs., 21-V-1975)。飾磨郡家島 (1 ex., 26-V-1978)。赤穂市天和 (4 exs., 25-IX-1974)。宍粟郡音水 (1 ex., 24-VI-

1973). 氷上郡 山本, 1954, 1958). 豊岡市内妙楽寺 [高橋, 1975]. 美方郡扇ノ山 [黒田, 1964, 高橋, 1975].

4. *Aethus nigritus* (Fabricius, 1794) マルツチカメムシ

ドイツ産で *Cimex nigrita* として記載された種である (Syst. Ent., 4:123, 1794).

小形のカメムシで (体長4.5~5.5mm) ほゞ円形に近い形をしている。頭部の前縁に沿って短い強い20数本の棘毛をもっている。雑草の生えた地中に生活している種である。

県下での産は余り知られていないが小さいので注意されていないのではないだろうか。

産地: 三原郡阿方西町 [友国, 1974]. 川辺郡猪名川町上阿古谷 [仲田, 1978]. 神戸市烏原 (1 ex., 25-VIII-1966, 1 ex., 11-IV-1974, 1 ex., 27-VII-1966, 1 ex., 17-VIII-1978, 1 ex., 17-IX-1982, 1 ex., 5-X-1982, 1 ex., 29-X-1982), 藍那 (1 ex., 10-IX-1978). 明石市大久保 (1 ex., 13-IX-1964), 江井島 (1 ex., 20-IX-1975). 宍粟郡音水 (1 ex., 30-VI-1972). 氷上郡 [山本, 1954, 1958].

5. *Geotonus pygmaeus* (Dallas, 1851) ヒメツチカメムシ

マルツチカメムシに似るがより小形で (体長4~5mm), 頭部の前縁に棘毛はない。雑草の根ぎわや地中にいる。成虫で越冬することが知られている。小林 尚博士による卵, 幼虫各令期の図説がある (1964)。本種は日本のみならず東南アジア各地, ハワイあたり迄分布している種である。県下では小さいからか案外記録は多くないが広く分布している種であろうと思われる。

産地: 三原郡灘 [国友, 1974]. 川西市大和 [仲田, 1978]. 神戸市烏原 (1 ex., 27-VII-1976, 1 ex., 29-V-1982), 下谷上 (1 ex., 23-VIII-1979). 宍粟郡坂の谷 (1 ex., 9-VI-1973). 多紀郡篠山 (1 ex., 17-IV-1976). 氷上郡 [山本, 1954, 1958]. 豊岡市内 [高橋, 1975]. 城崎郡城崎町南上 [高橋, 1975].

6. *Geotomus punctulatus* (Costa, 1847) ヒメクロツチカメムシ

前種に似るが体さらに小形 (体長3.5mm)。長谷川 仁氏によると (1960) ヒメツチカメムシとほとんど同色同型の酷似種で前胸背の点刻が顕著に異ると。前胸背の点刻はや、少い様である。上翅上の点刻も少いと思はれる。たゞ体色が赤褐色光沢あるのが大きく異なる点であるがこの体色からすれば本種の和名とも一寸合わぬ様な気がする。該当種がないので一応本種とした。

産地: 兵庫 [三橋, 1951], 神戸市烏原 (1 ex., 7-I-1978).

7. *Chilocoris confusus* Horváth チビツチカメムシ

ツチカメムシ類中最小 (体長2mm) の種である。越冬はかたまってするようで枯れた切株の中とか, ちりための周辺部で見つかると思われている。生活史は良くわかっていないが地中で生活し雑

草限際、苔の下などでも発見出来る。

褐色ないし淡褐色で光沢が強い。頭の前縁に沿い短棘を列生する。兵庫県下での記録は大変少い。
産地：神戸市烏原（1 ex., 7-I-1978）。丹生山（4 exs., 18-V-1958）。

8. *Chilocoris nitidus* Mayr, 1864 ツヤツチカメムシ

本種はDistant によってG. Lewis の採集品からKobe の記録をされている（1883）。その後全く記録されていない。この種はその後Distant によってカシミールに分布する種として図説されているが（Fauna Brit. India Rhy. I, p.105, fig. 55, 1904）その時日本産をLewis から受け取っている書き、体長5mmと記してSignoret から*C. nitidus* として貰った標本では体長3mmしか無く原記載のタイプ標本は大変コンディションが悪いものであると書いてありその後に記載した*C. piceus* と同一種ではないかと疑問をなげている。確かに体長5mmもあるとすれば大変よくわかると思うのだが、どうも*C. piceus* と同じとするのが良いのではないかと考えている。

産地：Kobe [Distant, 1883].

9. *Chilocoris piceus* Signoret, 1883 ツヤヒメツチカメムシ

前種の所で書いたように *C. nitidus* と同じ種なのかも知れない。チビツチカメムシに似るがやや大きく（体長3mm）、全体黒褐色を呈し、光沢が強い。辻 啓介氏が氷の山で採集されたのがこの種に該当すると考える（標本筆者保存）。

産地：養父郡氷の山（1 ex., 15-IX-1973, K. Tsuji leg.）。

10. *Legnotus trigutulus* (Motschulsky, 1866) ミツボシツチカメムシ

本種は紫藍色を帯びた黒色で光沢が強い。小楯板と革質部のほぼ中央に黄白紋があるので同定に困ることはない。

成虫は4, 5月頃オドリコソウ上で生活するが交尾後♀は地中に入り卵を塊状に産卵する。♀は卵塊を保護する習性があり幼虫は地中生活者である（後藤, 1953, 宮本, 1965）。

兵庫県下では余り産地が知られていないがもっと広く産する様に考えている。

産地：神戸市烏原（2 exs., 12-V-1980）。印南郡一乗寺（1 ex., 23-V-1965）。宍粟郡音水（2 exs., 13-V-1973）。

11. *Sehirus niveimarginatus* (Scott, 1874) シロヘリツチカメムシ

Scott が日本を産地に*Canthophorus* 属で記載した種である（1874）。

黒藍色で光沢が強く、顕著な点刻を散布する。体の側縁は細く黄白色を呈することにより割合同定はし易い。

本種の終令幼虫は石原 保博士が図説され（1946）、卵、幼虫、各令期ならびにその生活史につ

いては小林 尚博士の報文がある (小林, 1953, 1964).

ススキの根に寄生するカナビキソウに生活し、六月初旬羽化し成虫で越冬すると (岩田, 1932).

日高氏もイネ科植物をたんねんにあさることによって本種はみつかることとされている (1956).

G. Lewis の採集品で Distant が Hiogo を記録して以来筆者が僅かに1頭採集しただけでこれらの調査の必要のある種である.

産地: Hiogo [Distant, 1883]. 神戸市山の街 (1 ex., 1-VI-1958).

12. *Psamnozetes ater* Distant ハマベツチカメムシ

体長3.5mm. 光沢ある黒褐色で頭の前縁に沿い10数本の棘毛と少数の長毛を生じ、また体側には長い毛を有する. 触角は短く第2節は細く最短, 第3~5節は鶏卵形で太いと云うことから愚妻が淡路島で採集して帰ったものが本種に該当すると思われる. 宮本博士の図説 (1965) で同定した. 従来九州からの分布が知られていただけである. 海浜植物の根際あるいはその付近に多く見出されると.

産地: 津名郡轟 (1 ex., 20-VI-1979).

13. *Parachilocoris* sp.

産地: 三原郡福良 [友国, 1973].

以上兵庫県に産するツチカメムシ13種を記録した. 小形種の調査が不充分であることがよくわかる. 今後共調査に努力をつづけたいものだと考えている.

主要参考文献

- Scott, J., 1874. Ann. Mag. nat. Hist. ser. 4, Vol. XIV : 289-304.
Scott, J., 1980. Trans. Ent. Soc. Lond., 1880, part. IV : 305-317.
Distant, W. L., 1883. Trans. Ent. Soc. Lond., 1883 : 413-443.
Distant, W. L., 1904. The Fauna British India. Rhynchota (Vol.1).
三橋 信治, 1915. 昆虫世界, 12(219) : 481-484.
石原 保, 1946. 昆虫世界, 50(573) : 6-7.
石原 保, 1947. 虫・自然, (17) : 55-69.
後藤 伸, 1953. 新昆虫, 6(2) : 36.
小林 尚, 1954. 新昆虫, 7(10) : 22-24.
日高 輝展, 1956. 新昆虫, 9(9) : 48.
日高 輝展, 1956. 筑紫の昆虫, 2(1) : 12-17.

- 小林 尚, 1959. 新昆虫, 12(5/6): 8-10.
長谷川 仁, 1960. 長岡市立科学博物館研究報告, (1): 19-65.
Kobayashi, T., 1964. Kontyu, 32(1): 21-27. 宮本正一, 1965. 原色 昆虫大図鑑, 第3
巻 (北隆館).
川沢哲夫, 川村 満, 1975. カメムシ百種 (全国農村教育協会).
日 浦 勇, 1977. 原色日本昆虫図鑑 (下巻), (保育社).

[訂正]

本誌前号 (No.30) に発表して頂いた愚報の内 P.2, *Cercyon guisquilius* キバネケシガ
ムシとした学名は *Cercyon quisquilius* が正しい. 此処に訂正させて頂く (高橋).

トゲナナフシ 淡路島に産す

淡路島末記録の *Neohirasea japonica* HAAN トゲナナフシを, 津名町大町で採集したの
で報告する. 標本は筆者が保管している.

Omach-Hata, 1 ♀, 5. IX. 1984 (K. Tobi leg). (登日邦明)

ツシマクロスジヘビトンボの採集記録

淡路島産のヘビトンボ科の記録としては, ヘビトンボ *Protohemes grandis* が, 猪鼻川源
~中流 (石原ほか, 1973) と, 安乎 (堀田, 1978) から知られているが, この度, 柳学園高等学校
在学中の原田美保嬢が, 洲本市千草の灌漑用水路で, 本科の一種を採集し, 筆者の元に届けられた.

調査の結果, 淡路島末記録のツシマクロスジヘビトンボ *Parachauliodes continentalis* VAN
DER WEELE であることが判明したので, ここに記録しておきたい.

Chikusa, Sumoto, 1 ex., 6. VI. 1984 (M. Harada leg).

貴重な標本を提供された原田嬢に, 厚くお礼申し上げる. 標本は, 筆者が保管している.

(登日邦明)